

6月 いけざわこどもクリニック通信

Vol.153
2015/06/01



おしらせ

いよいよ熊本も梅雨入りしそうですね。雨の時の来院は大変です。玄関先でお電話いただくとスタッフがお手伝いに参りますのでお困りの際は遠慮なく声をかけてください。先月は手足口病が急増しました。皮膚のトラブルが増える季節。虫刺され軟膏処方できます！

感染症情報	前回	今回 4/27~5/24
アデノウイルス	10	11 ↑
溶連菌感染症	10	6 ↓
感染性胃腸炎	84	116 ↑↑
水痘(水ぼうそう)	7	2 ↓
りんご病	-	2 ↑
手足口病	19	70 ↑↑
RSウイルス	3	1 ↓
突発性発疹	15	14 ↓
おたふくかぜ	2	0 ↓
インフルエンザA	3	0 ↓
インフルエンザB	25	0 ↓
ヒトメタニューモウイルス	11	2 ↓

※看護師(パート・正職員)募集。

お問い合わせは池澤まで！

※九州中央リハビリテーション学院・看護学科の学生実習を受け入れています。皆さまのご協力お願い致します。

いけざわこどもクリニック

小児科・アレルギー科



住所	合志市野々島2461 (ユーパレス弁天 北側)
TEL	096-242-6633
ホームページ	http://www.ikezawa.org/
PC予約	http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/pc/index.html
Mobile予約	http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/
診療時間	8:30~12:30 / 15:00~18:30
休診日	木曜午後・土曜午後・日曜祝日



予約用QRコード →

「まなざしの中で」

私が看護学生の時のことです。実習先の小児病棟には、ナースステーションの隣に処置室がありました。処置室とは主に採血や点滴を行う場所です。入口のドアには「処置室」とだけ書かれており、中の様子は伺えません。それでも入院していた子ども達は、その処置室の前をわざわざ避けて通ります。病室の誰かが突然無理やり連れていかれ、泣き叫ぶ声が聞こえるため、そこは子ども達にとって「お仕置き部屋」のような怖いイメージだったのです。

当院を設計する際、私たちは迷わず設計士さんにこう伝えました。

『体育館みたいなのがいいです！』

感染室やワクチンルームは仕方ないとしても、広く開放的なほうが子どもにはストレスがないと思ったのです。また兄弟連れだったり、時にはぐずったりと小児科は内科と違ってとにかく人手が必要です。待合室で突然痙攣がはじまることや、また時には玄関先で吐いてしまうなど、予期せぬアクシデントも起こりやすく、そのことに看護師、医療事務、関係なく誰かスタッフがいち早く気が付いて素早く手を差し伸べてあげられるように、広くどこからでも見えやすいような造りになっています。

『診察室や処置室が部屋になっておらず壁がないですね。』 5月から実習が始

まったばかりの初々しい看護学生が、当院の特徴をこう述べました。そう！診察中でも腰を上げれば院長は玄関が見える(≧▽≦)こんなふうにあまり仕切られていないのが当院の特徴でしょうか？処置室なんて、もはや「室」ではなく、カーテンで仕切られているだけ。でも採血や点滴が終わった瞬間にカーテンをさっと開けると終わったことが分かるのか泣き止むことも多く、ちょっと姑息な手段でごまかしているだけ？かもしれないませんが、仰々しくないほうが子どもにとってはかえって抵抗がないように思うのです。勿論、オープンなことで支障がないわけではありません。時には相談で個室を希望される方もいますし、広いため常にスタッフは走り回らなければならず、その私たちの仕事ぶりは全て見えるため立ち振る舞いには殊のほか気を付けなければなりません。それでも、これからも、来院される子ども達を、スタッフ全員の目でいつも見守れるようなクリニックを理想としています。



時にはぐずったりとしてきつそうに、時には元気に走り回る子ども達。その時の病気だけでなく、待合室で遊び、子ども達の成長していく姿を、暖かな笑顔と眼差しで見守り、そして支えていきたいと思っています。

(文責 池澤 千恵子)

